

家族と一緒に、歳をとろうよ。

木ままびと。
K I M A M A B I T O

木に囲まれた、気ままな暮らし。

Before & After Story #02
Since 2016

6年あまりの間に、
住む人も
無垢の木の色も
変わりました。

Model House Discovery #2

キッチンまで
自然素材の空間に
癒しの香りを漂わせて。





Before -2016-
↓
After -2022-



6年あまりの間に、 住む人も 無垢の木の色も 変わりました。

1・2) よく人が集まることを考え、広く設計された玄関ホール。天井はスギ材、床と腰壁は節のないヒノキ材で、建具や玄関収納がウッドワンのニュージープライン®を使った「無垢ピノースシリーズ」です。こうして並べてみると色変化は歴然。
3・4) 廊下の壁面収納扉も「無垢ピノースシリーズ」。パインやヒノキといった白木の樹種は、経年による色変化を楽しみやすいことが特長です。



ピノース クローゼット ナチュラル色

since 2016

Before & After Story #02

本当にいい色になるのか、半信半疑だったけれど。

地域密着の工務店をご家族で経営されているKさま。住まいづくりの特長のひとつが「自然素材へのこだわり」で、約6年前にご自宅を新築された際にも、至るところに無垢の木や珪藻土が使われました。新築以前から、工務店のほうでは木への思いを同じくするウッドワンとお付き合いがあり、新居にも「無垢ピノアースシリーズ」をはじめとしたウッドワン製品を多数ご採用いただきました。

「もともと、この家は私たちが住むつもりで建てたんですけど。ちょうどその時期、息子が結婚することになって、いったんは息子たちに住んでもらったんです。その頃、来てくださいましたよね?」と奥様。

おっしゃる通り、新築から間もない2016年頃、ウッドワンは取材にお邪魔して息子さんから話を伺っていました。その後、息子さんたちは四季の住み心地を確かめるように1年ほど暮らせ、現在この家にお住まいなのはご主人と奥様、娘さんの3人なのとか。「最初は義父も一緒に暮らしていましたが、数年前に見送りました。社長も主人から息子へ代替わりしましたし、この7年、いろんなことが変わりましたねえ」。変わったといえば、住まいを形づくる木の色もそう。スギ、ヒ

ノキ、ニュージープイン[®]、オークなど、さまざまな樹種があめ色に変化していました。前回の取材時は清々しい印象だったのが、今はとても落ち着いた雰囲気。

「そうそう、建具や収納を決めるとき、ウッドワンさんのショールームに行ったんです。『最初はナチュラルな木のままの色だけど、だんだん深まっていくのがいいんですよ』って言われて、実際に色が変わったサンプルを見せてもらいました。ほんとにこうなるの?って当時は疑ってましたけど、なりましたねえ」。6年ぶんの思いを込めて、しみじみと振り返られる奥様。「今じゃ、旅行先で旅館に泊まったりしても『家のほうが落ち着くわあ』って思うんですよ」。木に囲まれた、何とも贅沢な暮らしを楽しんでいらっしゃいます。



前回の記事はこちら



FAMILY PROFILE

Kさま

家業は、愛媛県四国中央市で1951年から続く工務店。約6年前、新築されたご自宅を取材させていただき、今回はさらに年月を経て再びお邪魔しました。

使用キッチン

su:iji オーク
OK クリア塗装



5



6

5・6) ドアのレバーハンドル、階段腰壁の笠木など、細部に至るまで木の素材感で統一。手が触れる場所に木があると、ほっと心がなごみます。
7・8) プライベートな部屋が集まる2階も、これ以上ないほど木の温もりにあふれています。2階の床は無塗装のチーク材でしたが、6年の間にご自分たちで塗装を楽しまれました。歳月を経て深みを増した建具の色と調和し、ご家族専用の空間らしい落ち着いた雰囲気になっています。

どこよりも快適な暮らし心地。
それはずっと変わらないですね。

住まいづくりの際に断熱・換気・ガラスの性能をフル活用したことで、実際に住まれてからも、夏は涼しく冬は暖かいことを実感されているそう。「冬でも私たちは家の中で薄着だし、寝るときも毛布いらず。お客様も、玄関を入ると驚かれるんです。何でこんなにあったかいの!?って」。

さらに木はもちろん、壁を珪藻土にするなど自然素材を多用しているため、見た目にも温もりにあふれています。「だから6年間、ずっと気持ちいいですよ」。ご家族構成や暮らし方が変わっても、いつも変わらない“快適”がここにありました。

Before

After



7



8

ピノアースドア・クローゼット ナチュラル色



su:iji オーク OK クリア塗装



Before -2016-
↓
After -2022-

木の包容力を最大限に楽しむ、コの字型キッチン。

「この家に合う」と新築時に選ばれたキッチンは、無垢の木の「スージー」。近頃ではなかなか見ることができない、大きなゆとりが感じられるコの字型です。扉は、奥様がショールームで気に入ったとおっしゃるオーク。使い込むことで風格が増し、コの字のレイアウトと相まって大迫力のキッチンになっていました。

毎日ここに立っておられる奥様は、洋食屋さんでアルバイトされた経験があり、カレーやシチューなどの煮込み料理もお手のもの。ご家族にいちばん好評なのは、洋食屋さんのレシピで作るハンバーグで、玉ねぎを炒めずに生のまま使うことがポイントだそうです。

「前に住んでいた家では壁付けのキッチンだったんですよ。このキッチンは人と話しながら料理ができるし、作業スペースが広いから快適。それにコの字だと、広くても歩数が少なくて済むのがラクですね。振り向くだけでまだまだ置ける！って思います」。

ただひとつ、若干の使いにくさを感じておられるのが高さの問題。新居の計画時、途中で息子さん夫婦が住むことになったため、背の高い息子さん夫婦に合わせてキッチンの高さを変えたそうです。「息子は183cm、奥さんも168cmあるんです。だから90cmにしたんだけど、一般的な85cmで良かったかなと。低すぎるよりはいいんですけどね。でも、本当にそれだけ！他は何の不満もありません」。

コの字型キッチンは収納スペースもたっぷり確保できるため、天井からの吊り戸棚をなくして開放感を保っています。カップボードも置かず、食器類はすべて引き出しの中に。できるだけ空間をすっきりさせることで、木の存在感がいつも際立っていました。「そういえば、このキッチンを使い始めてから、家電のメーカーとかデザインにこだわるようになりましたね。見えるものは、なるべくおしゃれにしたいなと。古いものもあるんだけど、それはそれで似合ってる」。新しいもの、古いものも受け入れてなお、美しいキッチン。来訪者の方々からも大好評だそうです。



キッチンパネルには、娘さんが買い集めるマグネット小物がずらり。



奥様がふるまってくださった愛媛のミカンジュース。元気になる味わいでした。





my kitchen's point!

だから、このキッチンが好き。

「飾ったりするのは自信がなくて、収納は隠す派ですね」と奥様。
 どうしても見える家電はおしゃれなものを。でも、古い道具も大事にしたい…。
 そんな思いをぜんぶ受けとめてくれるのが「スイージー」だったとおっしゃいます。



point

01 こだわりの道具が似合うから。



おしゃれな家電やお鍋を使いこなしつつ、古い道具も大切にされている奥様。ごはんを炊くのに愛用されているのは、ガス火を使う懐かしの炊飯器です。「電気式の炊飯器は、何度買い替えてもおいしいと思わないの。これだと15分で炊けるしね」。ごはんを保存するのも、昔ながらのおひつ。木でできたおひつは調湿効果があり、ごはんの湯気や水分を適度に吸収してくれます。炊飯器もおひつも、ごく自然にキッチンの風景になじんでいました。もし、つるつるピカピカのキッチンだったら…。あらためて、木のふところの深さを教えていただきました。



point

02 温もりを増したオークの扉。



「オークは大人らしい、しっとりした雰囲気が入りました。でも、新築の時の色は、わが家にはちょっと白すぎましたね。だんだんいい色になって、今ぐらいがちょうどいい。ますます好きになります」。お手入れも「汚れたら拭くだけ」で、特に負担に感じることはないそうです。



point

03 広く、美しく、機能的なワークトップ。



キッチンの天板は、オーク材の扉との組み合わせで重厚感と高級感が生まれるエンジニアドストーン。エンジニアドストーンは天然水晶を約93%使用した素材です。Kさま邸のキッチンに合わせて継ぎ目の目立ちにくいコの字型に加工することは非常に難しく、「他社ではできなかったんです。ウッドワンさんに頼んだら、特注で私のイメージ通りにしてくださいました」。美しいうえに掃除もしやすいワークトップが、奥様の一番の愛着ポイントになりました。



※画像の色柄は現在廃番です。

星くずを散らしたようなキラキラ感が特長のエンジニアドストーン。



キッチンまで自然素材の空間に
癒しの香りを漂わせて。



Model House Discovery #2

大分県での暮らしが、 “自然のちから”を教えてくださいました。

玄関を入った瞬間、ふわっと良い香り。それもそのはず、奥様のmaikoさんは、ご自宅のアロマオイル(植物などから抽出した精油)を使ったお仕事をされています。お客様の日頃の悩みや体調面の不安を丁寧にヒアリングしたうえで、その場でオリジナルのアロマを調合するのだそうです。

maikoさんとアロマオイルの出会いは、ご主人の転勤によって6年ほど暮らされた大分県でのことでした。それまでは、ご夫婦ともに生まれ育った東京にお住まいだったため、最初は環境の違いに戸惑ったそうです。「でも、大分は海と山に囲まれて温泉もいっぱい。私は病弱なほうだったんですが、何だか体調が良くなってきて。ご近所さんも、“曲げわっぱのお弁当箱に玄米おにぎり”のような暮らしをされている方が多く、お手本にしたいことがたくさんありました。アロマオイルを使った自然療法も知人から教わったんです。おかげで心も身体も元気になって、この良さを広めたい!と考えるようになりました」。

大分県で暮らす間にお子様生まれ、人間関係も広がっていたため、再び関東に戻ることにした時には寂しくて涙が出るほどだったそうです。また、暮らしの価値観がガラリと変わったことで、住む場所についても「もともと東京に住んでいた頃は、23区内の駅近で…なんて思っていたんですが、戻る頃には主人と『絶対に緑が見えなきゃイヤだね』って」。大きな公園のそばにある土地を見つけ、窓いっぱいに緑が眺められるお住まいを実現されたのでした。

住まいづくりでこだわったのは、自然素材をなるべく多く使うこと。その要望に応じてくれる工務店を探し回って依頼されました。木造で内装にも木の温もりをふんだんに取り入れ、フローリングは足ざわりのやわらかな杉材に。壁は珪藻土の塗り壁。LDKでは、あらわした梁が空間のアクセントとなっています。さらにキッチンまで、無垢の木を使った「スイージー」を採用されました。

建築から約10年経った今も、「まだ家の中で木の香りがするんですよ。壁も珪藻土だからか、空気がどんよりした感じがなくてすっきりしています」。「香り」をお仕事にされていて、嗅覚が研ぎ澄まされているからこそのご感想です。「木の色も新築の時は肌色だったのが、少しずつあめ色に経年美化してきました。そんな様子を見ると、ますますこの家が好きになるんです。ちょっと汚れていても、その汚れさえ愛おしい。愛着がわく、って本当ですね」。

大好きなわが家のお手入れも、上手にアロマオイルを使って楽しんでおられるmaikoさん。「オイルをそのまま垂らして磨いたりもしますね。香りに癒されて気分も上がるんですよ。レモンやオレンジの柑橘系オイルがお掃除には向いています」。好きなことを活かして、暮らしを整え、気持ちを整えると、また新しいことに挑戦しなくなってくるのだとか。今は思うところあって、お仕事をしながら通信制の大学にも通っておられるそうです。「また大分にも遊びに行きたいですね。パワーをもらいに」と、笑顔で語ってくださいました。

Aromatic Scents of Healing

FAMILY PROFILE

maikoさま

以前に大分県で生活されたことがあり、その経験が価値観の変化や今のお仕事に影響。自然素材にこだわったお住まいを建築されて約10年が経過しました。

使用キッチン

su:iji ニュージーパイン®
NZ ナチュラル色

アロマと
木の家は相性抜群。
自然のものに囲まれると
心身ともに
健やかになります。





my kitchen's point!

だから、このキッチンが好き。

suji ニュージープライン® NZ ナチュラル色



玄関のすぐそばにあり、買い物帰りにも便利な maiko さん家のキッチン。
キャビネットの扉は、周囲の建具と同じニュージープライン®のナチュラル色を選び、
カフェカーテンや籐のカゴで自分らしくコーディネートされています。



point

01 「自然素材はお手入れが大変」は、間違いです！



「それほどお手入れしなくても、スージーは気になりません」と扉をなでる maiko さん。最近娘さんもキッチンに立って「けっこう汚してくれる」そうですが、「お醤油も染み込まずにサッと拭くだけだし、木は汚れもキズも適度に隠してくれる。指紋も付きませんよね。実家のキッチンは、ピカピカの素材だから大変だろうなって」。木に似合うステンレス天板の油污れは、「重曹＋水＋オレンジのアロマオイル」の特製スプレーでキレイにするのが maiko さん流です。

point

02 昭和レトロなチェッカーガラス。



ウォールキャビネットは、格子状に凹凸がデザインされたチェッカーガラスを選択。現在は廃番となっているタイプですが、昭和時代の“水屋”のような趣があり、ナチュラルな雑貨とも好相性です。

point

03 掘込み仕様の取手が気持ちいい。



木の質感を最大限に楽しむため、ベースキャビネットの取手は掘込み仕様に。横から見ると、アルファベットの“J”の形に凹んだ部分に手をかけて収納物を引き出します。「触るたび、ダイレクトに“木”を感じられるのがお気に入りです。ホコリも意外と溜まりませんよ」と maiko さん。つまみやハンドルがないため、見た目にもすっきりとした印象で、使い込むうちに味わいが増した木の色や木目が引き立ちます。

WOODONE AR Kitchen Simulator

スマートフォンやタブレット等で、イメージにあったキッチンのシミュレーションができるサービスです



スマートフォンやタブレットを使えば、
ARで実寸大のキッチンをお家に配置できます

キッチンのパーツや
形状を3Dで
シミュレーションし、
見積金額を算出

キッチンを自動で
AR化、現実空間へ
配置することで
より具体的に
イメージ

ショールームの
予約サイトに遷移し、
そのまま来場
予約ができる

EC・カタログ向け
ARサービス
「RITTAI」および
API提供により
実現

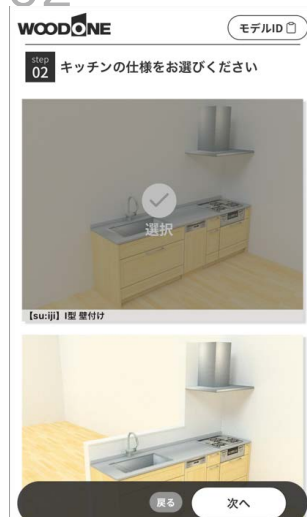
操作方法

01



WEBサイト上でイメージに近いキッチンをお選びください。

02



パーツや形状を選択します。

03



3Dでシミュレーションし、概算見積を算出します。
※すべてのパターンが選べるわけではありませんのでご了承ください。

04



概算見積の算出後、選んだキッチンの実寸大のARをご自宅に配置できます。

05



「予約へ進む」ボタンを押すと、ウッドワンのショールームの来場を予約することができます。

シミュレーション
はこちらから



【動作環境】

●シミュレーションの対応環境条件
Chrome、Safariで使用可能

●ARの動作環境

iOS : ARkit対応端末 (iOS12以降のiPhone6S以降 / iPad第5世代以降 / iPod第7世代)
Android : ARcore対応端末 (デバイスリスト)

●サポート範囲

Chrome 105.104以降、Safari 14.13以降

●商品の外観・価格は予告なく変更することがありますので、予めご了承下さい。 ●Web上の掲載物ですので、掲載商品の色や外観が実物と多少異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

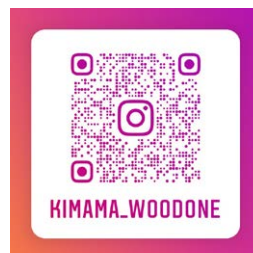


webサイトのご案内

<https://woodone.jp>

ウッドワン kimama 検索

「木と、くらそう。」木と人とのかわりをいろいろな角度から見つめるサイトです。



Instagramのご案内

Kimama.

木のある暮らしを、もっと気ままに。
いろいろな物語を、一つずつ、ていねいに集めています。
#kimamaな暮らし